

◆ 相楽郡の健康な生活に役立つ情報を発信します ◆

相楽医師会だより 18

● 18号 平成20年12月発行 ● 社団法人 相楽医師会
● 京都府相楽郡精華町乾谷金堀3-2 JA京都やましろ山田荘事務所2階
● URL/http://www.souraku.kyoto.med.or.jp

膠原病について

みなさん、膠原病という言葉が聞かれた事はあるでしょうか。「聞いた事がない」、「聞いた事はあるがどんな病気かわからない」、「何かわからないけどこわそう」という方がほとんどでしょう。

膠原病とは、「関節リウマチ」「全身性エリテマトーデス」、「シェーグレン症候群」、「強皮症(全身性硬化症)」、「多発性筋炎」、「血管炎」など、全身の多くの臓器を障害する可能性のある原因不明の炎症性の病気の総称です。

この膠原病に含まれる病気にはいくつかの特徴がみられます。まず症状としては「なかなか下がらない発熱」、「疲れやすい」、「数週間続く関節痛や筋肉痛」、「朝のこわばり」、「手が冷たい、水にふれたら手が白くなる」、「日光に当たった後に顔が赤くなる」、「検診で何度も血尿が指摘されている」などがあり、治療については、炎症といっても細菌やウイルスが原因ではないので抗生剤や抗ウイルス剤などの効果がないといったような特徴を持っています。

膠原病の多くがこれらの特徴を併せ持っているにもかかわらず、それぞれが別々の病気である為、悪くなる臓器の種類やその程度、病気の進行の早さ、治療法も異なっています。ですからきっちりと診断をつけてもらい定期的な検査・治療を受けないとなかなか良くなるはなりません。また膠原病の中には、厚生労働省の特定疾患(検査・治療について公的補助が受けられる)の対象となっているものも多くある為、その点でも診断をつけてもらう事は大事です。

以前なら病気のコントロールや診断すら難しかったものが、最近では医学の進歩により診断がつくものが増え、中には治ってしまうようなものもあります。これを読まれた方の中で先に挙げたような症状がある方は是非近くの医療機関でまず診察を受けて頂き”膠原病“の可能性があるかどうか判断してもらってください。

(公立山城病院 内科(膠原病・リウマチ)和田 誠)

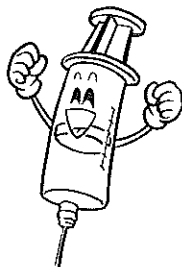
リウマチについて

関節リウマチは、体を外敵から守るための免疫機構が、自分の体の一部(関節)を誤って攻撃してしまうために、関節炎が長く続き関節が破壊される病気です。関節の破壊は発病初期の数年間により速く進むという特徴があります。またまれには進行の早いタイプや全身の血管炎を伴った重症なタイプもあります。

関節リウマチといえば、「寝たきり」を連想した時代もありましたが、この20年間で、治療法はずいぶん進歩し、最近の治療法の発展には眼を見張るものがあります。

進歩の一つめは、抗リウマチ薬と生物学的製剤という薬の発達です。生物学的製剤というのは、関節リウマチの原因のより近い部分に作用する、これまでにない画期的な注射薬です。この治療では前もって、肺炎、結核などにかかりやすいかどうか、事前に十分な検査が必要で、患者さんがこの治療に適しているかどうかを調べる必要があります。

軽度の関節破壊ならば修復される例も確認されており、これらを発病早期に使えば、関節の破壊がなく、リウマチが鳴りをひそめる(寛解)状態に持ち込める可能性があります。



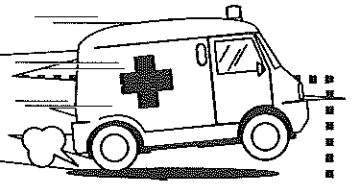
治療の進歩の二つめは、傷んだ関節を手術的に治す方法です。この手術は主に股関節と膝関節に対して行われる人工関節置換術です。その他の関節に対しても人工関節を含めいくつかの手術が行われ、不幸にして関節が傷んできたとしても、手術は寝たきりを防ぎ歩けるようになる有効な手段となっております。



このように関節リウマチの治療は近年格段に進歩しています。リウマチでないかと心配されておられる方やリウマチで悩んでおられる方はリウマチ科、整形外科、膠原病内科などを早めに受診してください。

(ささき整形外科 佐々木 博幸)

救急医療がピンチです

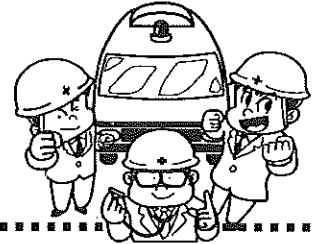


全国的な医師不足が報じられています。当院も例外ではなく、規定数の約半数という極端な医師不足の中で運営されています。その結果、救急を担う医師は大変疲弊しています。

当院は山城南医療圏(旧相楽郡)の二次救急医療機関です。二次救急とは、緊急性があり、おおむね入院管理が必要な疾患に救急対応することです。軽症や急がなくてもよい病態での救急受診を、出来るだけ控えて頂くようお願い致します。軽い病状なら、近くの医院の受診をお勧めしますし、待てる状態なら日中の受診をお勧めします。また、十分動けるなどの状態では救急車の要請を控えましょう。本当に緊急・重症の患者さんが危険にさらされてしまいます。

少ない医療資源(医師・看護師・救急救命士など)を有効に活用し、救急システムを十分稼働させるため、是非ご協力ください。

(公立山城病院 地域医療推進部)



中学1年生・高校3年生の麻しん・風しんワクチン接種

◇麻しん(はしか)排除計画◇

麻しんは、2007年に10歳代及び20歳代を中心とした年齢層で流行が生じ、多数の学校が休校措置を行うなど、社会的な混乱がみられたため、麻しんワクチンを1回しか接種していない世代に対して、補足的接種として2回目の予防接種を平成20年4月から実施しています。

◇予防接種実施内容と時期◇

□実施提要学年

中学1年生...(公立中学校での集団接種又は個別接種)

高校3年生に相当する方...(個別接種)

□個別接種(市内指定医療機関で受ける)

・対象者に、個別通知(接種申込書、予診票等)します。

□集団接種(在籍中の公立中学校で受ける)

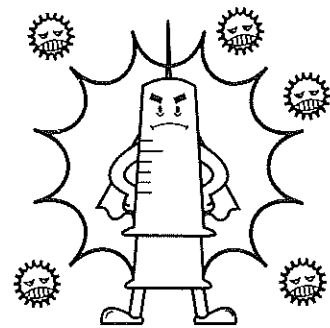
・対象者に学校を通じて通知(接種申込書、予診票等)します。

□その他

・平成20年度の対象となる方で、乳幼児期に接種していない方は、今回の定期接種を受けた後に、2回目の接種をおすすめします。費用は自己負担となりますが、免疫力をより確実にするためのものです。

・平成20年度の対象にならない方で、過去に一度も麻しん・風しん予防接種を受けたことのない方は、まず1回を任意(自費)で受け、2回目のチャンスとして3期か4期の機会を活用してください。

・心臓病・腎臓病・血液の病気・免疫不全・アレルギー等の病気がある場合は、予防接種を受けてよいかをかかりつけの医師にご相談ください。



相楽医師会からのお知らせ

- 予防接種は感染症予防の第1歩。接種時期を確認して忘れないようにうけましょう。
- 年に一度は健康チェック。基本健診・がん検診をうけましょう。

受診の時には、保険証を忘れずに。

